

第1学年3組 音楽科 学習指導案

令和元年12月12日（木）

1 題材名 心通う合唱を目指して ～楽曲分析を活かした協調学習～

2 題材について

(1) 題材観

本題材は合唱コンクールを終えた合唱活動における発展学習として設定した。本時で扱う教材『てのひら』は、1学年の合唱の応用編として扱うことのできる混声3部合唱曲である。これまで1学年の合唱では、小中連携で強化してきた「正しい発声のドリル」を合唱の特徴に合わせてパターンを変えながら活用してきた。また、楽譜を読み取る力（楽曲分析アナリーゼ）の育成として、基本的な音楽の記号や歌詞をより伝わりやすくするための発音、さらに作曲者や作詞者の思いや楽曲に込められた意図を協調学習によって引き出すジグソー法を取り入れてきた。特に、ジグソー法では、【A 強弱】と【B 発音】に重点をおき、より知覚・感受しながら歌唱工夫が行えるよう視聴覚教材を生かしながら、学びの進度に合わせて段階的に取り入れてきた。自分一人では深めきれない楽曲分析を多角的視点から組み合わせ、仲間と共に一つの作品を作り上げる喜びは校内合唱コンクールを通して学んだばかりである。本題材はその発展として、今までの授業プログラムを継続しながら「斉唱」、「混声2部合唱」、「男女の掛け合い」、「混声3部合唱」など、それぞれの音の重なり方を再び味わうことのできる楽曲である。また、歌詞の中にも「優しい気持ち」、「素直な気持ち」と、音を通して自己の心の在り方を振り返る楽曲となるため、豊かな心を育む“心通う合唱”へと授業展開を実践したい。また、一部の男子生徒においては変声期を迎えていないため、小学校からの合唱活動の継続として、〔共通事項〕(1)イにも配慮し取り組ませたい。さらに、授業中の生徒の発言・発表も、固定化しないように配慮しながら、生徒たちが考える【より意思のある音楽づくり】へと昇華していきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、日頃から歌唱以外の分野においても興味・関心が高いため、気になったことはすぐに質問する雰囲気がある。また、曲想を上手につかむことのできる生徒が多く、これまで行った歌唱の協調学習では、ジグソー活動やエキスパート活動を取り入れ、他グループが考える発見や工夫を素直に実践しようとする姿が見られた。10月末に行われた校内合唱コンクールでは、女声のはつらつとした真っ直ぐな歌声と男声の柔らかく温かく支える歌声を生かし、爽やかな発声で披露することができた。また、中学校へ入学してから半年間で身に付けたい基本発声と表現工夫を随所で感じられる成長を見せた多くの方に歌声を評価していただいたことで自信をつけ、実技テストにおいても、ステージでの経験から自己を振り返って発表しようとする姿が見られた。

本題材の前に、合唱コンクール後の発展授業として全校合唱曲を深める公開授業を楽曲分析（アナリーゼ）を生かして実施した。楽曲のイメージがより深まり「こう歌いたい」と意欲をかきたて、それを実現するための楽曲分析（アナリーゼ）は、楽譜に直接記入することで、自らの考えの軌跡となり、今では生徒たち自身が楽曲の理解を深めるために欠かせないツールとなっている。引き続き、エキスパート活動やジグソー活動の協調学習においても、発言が苦手な生徒や活動の輪の中にうまく入れない生徒に向けて小グループの活動にするなど、学級の生徒全員が納得のいく歌唱へと発展できるよう本題材を扱う。

(3) 指導観

合唱活動において、生徒がより主体的に活動するための手立てとして、常に計画的に系統性を意識して取り組むことが大切である。特に、音楽づくりに欠かすことのできない「豊かな心」を育成する発達段階を意識した「土台づくり＝授業プログラム」はとても重要である。その中でも特に本校では【意思のある音楽づくり】の一環として、以下の3つの活動を重点・強化してきた。

- | |
|--|
| 1つ目、楽譜に直接書き込んで自ら考えの軌跡を残していく「楽曲分析(アナリーゼ)」 |
| 2つ目、学びの進度に合わせて、仲間と共に段階的に楽曲についてイメージを共有し、理解を深めていく「協調学習」の取り組み |
| 3つ目、学んだ作品を体験から紹介する「紹介文」の作成 |

さらに合唱指導における本校の音楽の授業では、生徒が段階的に楽曲への理解が深められるよう、2つ目の「協調学習」では、以下の2つの活動を留意した。

- | |
|--|
| 「エキスパート活動」…一つの課題について、いくつかの異なる視点から学習する活動。 |
| 「ジグソー活動」……学習したことをパートに持ち帰り、話し合いから見出した内容を組み合わせ、新しい課題を解く活動。 |

特に「ジグソー活動」では、生徒が発見した“楽曲分析(アナリーゼ)”が表現につながられるよう、視聴覚教材を加えることによって共通理解を深め、より意思のある【考えた合唱】へとつなげていきたい。本題材では生徒たちがもつ一人一人の豊かな感性をさらに引き出すことができるよう、心通う歌唱へと促していく。

(4) 道徳教育(本校の研究主題)との関わり

研究主題「生徒一人一人のよさを伸ばし、豊かな心を育む道徳教育の実践」 ～道徳教育による全校的な指導体制の確立(道徳の教科化への道筋)～
--

〈道徳教育上の視点—特別の教科 道徳との関連—〉

D 感動

本校の合唱指導の特徴である「エキスパート活動」と「ジグソー活動」の協調学習は、全学年が定期的に取り組む、授業の最初と最後でどのような変化をもたらしたのか、録音した音源で聴き比べを実施する。このことは、楽曲の構成だけでなく、作曲者の思いや意図、歌詞の意味など、一人一人が他者の多様な考えを統合し、自分の考えとして深められるため、より味わいのある表現活動(D感動)へとつながる。また、音楽であるからこそその「聴き比べて変化を感じ取ることのできる協調学習」は、豊かな心を育む道徳教育へとつながっていくと考える。

3 題材の目標

- (1) 曲の特徴に興味・関心をもち、協調学習に主体的に取り組む。【音楽への関心・意欲・態度】
- (2) 速度、旋律、強弱、ハーモニー、歌詞に合った抑揚など、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、発声や言葉の意味をどのように表現するかについて、思いや意図をもって音楽表現を工夫する。【音楽表現の創意工夫】
- (3) お互いの声を聴き合い、歌唱表現をするために必要な発声や発音などの技能を身に付けて表現する。【音楽表現の技能】

4 教材について

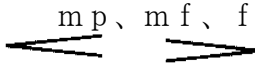
教育芸術社『てのひら』混声三部合唱(作詞:館内浩二 作曲:館内聖美)

本教材は中学校1年生が合唱コンクール後の振り返りとして、また発展学習として音楽的要素を改めて知覚できる楽曲である。

イメージしやすい歌詞が繰り返される印象的なこの楽曲は、斉唱、男女のかけ合い、混声

2部合唱、混声3部合唱へと発展し、それぞれの形式のよさを合唱曲を通して知覚させていく。しっとりとした抑揚を生かす場面、軽快なリズムと言葉の組み合わせが楽しめる場面、他と声を合わせる喜びやハーモニーを感じやすい場面等、「てのひら」を通して生徒のイメージした内容を引き出して表現へとつなげたい。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

〔共通事項〕ア	旋律・抑揚	強弱	テクスチャ
イ	拍	mp、mf、f 	斉唱、混声2部合唱、混声3部合唱
主な学習活動	「協調学習による歌唱表現の深め合い」 一つの課題についていくつかの異なる視点から学習する「エキスパート活動」と、学習したことをパートに持ち帰って、その話合いから見出した内容を組み合わせる「ジグソー活動」に取り組む。		

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	①歌唱の表現に興味・関心をもち、歌唱の学習に進んで取り組もうとしている。 ②曲の表情や味わいに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。 ②歌詞の内容、曲想にふさわしい表現などを工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌ったり、自然で無理のない歌い方や声を合わせて歌うなどの基礎的な技能を身に付けて歌っている。
1時	①		①
2時	②	①	
3時(本時)	②	①	
4時		②	①

7 指導と評価の計画（4時間扱い）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準
1	○歌詞の内容や曲想を感じ取る。 ・呼吸法や発声練習の歌で歌声づくりの準備をする。 ・各パート音とり① ・エキスパート活動①。 【A強弱、B発音】	○息の使い方や響きの当て方に留意させる。 ☆正しい姿勢と発声で、進んで取り組もうとしている。(ア①) ☆歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌ったり、自然で無理のない歌い方や声を合わせて歌うなどの基礎的な技能を身に付けて歌っている。(ウ①) ○エキスパート活動は生徒が主体的に進められるよう、各リーダーを支援する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生かしたい単語に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生かしたい単語はA、Bそれぞれのエキスパート活動でポイントとなった部分と実は重なっていることに気づかせる。 ○楽譜を活用させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。 ・各パートの音とり② ・エキスパート活動②（前時の確認）。【A強弱、B発音】 ・ジグソー活動① ・楽曲から曲想をつかむ。 ・発声、旋律、テンポ、発音、抑揚等について確認する。 ・録音→聴く→足りない表現を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エキスパート活動は生徒の主導的な活動で進められるよう、各リーダーを支援する。 ○ジグソー活動でも小グループで発見した工夫を自主的に共有し、歌う意欲につなげられるよう促す。 ☆曲に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(ア②) ☆音楽を形づくっている要素（強弱や発音、旋律や抑揚など）を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを歌詞の内容に合わせて思いや意図をもって表現している。(イ①)
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。 ・ジグソー活動②（小グループ） ・録音したものを聴き比べる。 ・足りない表現はどこなのか、楽譜に書き込み、歌って工夫改善する。（1番を中心に） ・タブレット活用（修正箇所の楽譜写真）→全体共有→全体で合唱して修正を図る。 ・振り返り（アンケート提示） ・「てのひら」の曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・混声3部合唱をする。 ・前回の録音と比べ、批評する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジグソー活動は生徒が主体的に進められるよう、声をかけ促す。 ○楽譜を活用させる。 ☆音楽を形づくっている要素（強弱や発音、旋律や抑揚など）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもって表現している。(イ①) ○修正箇所の写真＝歌唱で直す部分のため、工夫の内容をポイントを絞って全員に確認させる。また、小グループで写真を撮る際、多くの視点から表現活動につなげられるよう、なるべく内容が重ならないよう、教師が巡回し調整する。 ○小グループで修正箇所が重なった場合は、特に重点的に全体で指導する。 ○作曲者の思いと音楽の構成の関わりについて考えさせ、意思のある【考えた合唱】の大切さを学ばせる。 ☆曲の表情や味わいに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(ア②)
4	<ul style="list-style-type: none"> ○声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。 ・ジグソー活動②（小グループ） ・録音したものを聴き比べる。 ・足りない表現はどこなのか、楽譜に書き込み、歌って工夫改善する。（2番からラスト） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジグソー活動は生徒が主体的に取り組み、求める内容がブレないよう、声をかけ促す。 ○楽譜を活用させる。 ☆歌詞の内容、曲想にふさわしい表現などを工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(イ②)

4	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用（修正箇所の楽譜写真）→全体共有→全体で合唱して修正を図る。 ・「てのひら」の曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・混声3部合唱をする。 ・紹介文にしてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○修正箇所の写真＝歌唱で直す部分のため、工夫の内容をポイントを絞って全員に確認させる。また、小グループで写真を撮る際、多くの視点から表現活動につなげられるよう、なるべく内容が重ならないよう、教師が巡回し調整する。 ○小グループで修正箇所が重なった場合は、特に重点的に全体で指導する。 ○作曲者の思いと音楽の構成の関わりについて考えさせ、意思のある【考えた合唱】の大切さを学ばせる。 ☆歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌ったり、自然で無理のない歌い方や声を合わせて歌うなどの基礎的な技能を身に付けて歌っている。（ウ①） ○曲のもつ特徴、自分のパートの工夫だけでなく他パートとの関連、この曲を歌うときの全体的な工夫や表現について紹介する。
---	---	--

8 本時の学習指導（本時 3 / 4）

（1）本時の目標

- ①曲に関心をもち、合唱づくりに積極的に参加している。【音楽への関心・意欲・態度】
- ②曲の特徴や音楽を形づくっている要素を感受し、イメージをふくらませ、表現を工夫している。【音楽表現の創意工夫】

（2）展開

	○学習内容・主な学習活動 ☆研究に関わる学習活動	・指導上の留意点 ◎具体の評価規準（評価方法・手だて）
導入	○歌声づくりの準備。 ・「楽しい発声のドリル」を歌う。	・正しい姿勢・呼吸・発声について再確認する。 ・曲にふさわしい歌声を意識する。
展	○前時の確認と復習。 ・キーワード＝強調したい部分を再確認する。 キーワード「生かしたい単語」。	・楽曲分析を経て表現した歌声、（〈例〉音の長さ、抑揚、発音⇒より聴きやすく伝わりやすい言葉へ。）を“聴き手”の立場から聴き比べる。また、前時で学んだ【強弱と発音】は強調したい部分と「生かしたい単語」が一致していることにも触れる。
開	○本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">楽曲分析（アナリーゼ）から、表現に磨きをかけよう。</div> ○歌唱表現の創意工夫。 ☆ジグソー活動 【A：前列は強弱 赤ペン】 【B：後列は発音 青ペン】 【その他の表現 えんぴつ】 ・第1音楽室（録音再生部屋） ・第2音楽室（模範CD部屋）	・ジグソー活動ではそれぞれ4人1グループに分ける。 ・A・Bの進行の手助けとして、ポイントとなる部分をあらかじめ提示し、書き込みに生かせるようにする。ワークシート（楽譜）を活用させる。 ・楽譜に書き込むときは色を統一し、何についての工夫なのか視覚的にはっきりさせる。

<p>展</p> <p>開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A、Bで指定されたワードを重点的に小グループ内で共有する。 ・ 録音を聴いて感じた修正箇所を洗い出し、歌うなどして考えをまとめ、楽譜に記入する。(1番のみ) ・ 小グループで修正したい工夫部分を写真に撮り、TVで映す。 <p>○表現の技能の習得。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協調学習で話し合われた工夫を思いや意図をもって表現する。 ・ TVに映しだされた部分を歌って修正する。 <p>○歌唱表現の工夫。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修正を意識して、1番のみ歌う。(録音) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回しながら、個人の意見を引き出せるように促す。 ・ 録音又は模範部屋をうまく活用できるように促す。 ・ ジグソー活動で出てきたA、Bそれぞれの工夫を楽譜(1番のみ)に書き込ませる。特に録音を聴いて感じた修正箇所の中で、全体で修正したい部分にポイントを絞り、工夫を考える。 <p>◎曲の表情や味わいに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(評価規準ア②グループ活動の観察、ワークシート(楽譜記入))</p> <p>〈B規準に達しない生徒への手立て〉</p> <p>協調学習の際、個別で具体的な工夫につながるキーワードを示す。(音楽の流れ、音楽のもつ色合いや温度、固さ、強弱、リズムなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫内容をポイントを絞って全員に確認させる。また、小グループで写真を撮る際、多くの視点から表現活動につなげられるよう、なるべく内容が重ならないよう、教師が巡回し調整しながら写真を撮る。 ・ 小グループで修正箇所が重なった場合は、特に重点的に全体で指導する。 ・ 協調学習から生み出された工夫を最大限に表現できるように、声かけをする。 ・ 楽曲分析から出た内容の中で集中練習が必要な部分は取り出して歌わせ、歌唱表現に磨きをかけさせる。 ・ TVに映し出された修正ポイントを拡大楽譜に教員がまとめる。 ・ 楽曲のイメージに近づけられるよう、部分毎に声や合図を出しながら作品を仕上げさせる。 <p>◎音楽を形づくっている要素を聴き取り、よさや面白さを感じ取りながら表現などを工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(評価規準イ①活動観察、ワークシート(楽譜記入))</p> <p>〈B規準に達しない生徒への手立て〉</p> <p>意識する場面がわからない場合は、具体的なヒントを拡大歌詞を使って合図する。また、比較的表現を得意とする生徒の近くで歌わせ、安心感を与える。</p>
<p>整</p> <p>理</p>	<p>○本時のまとめ。</p> <p>修正した箇所がどのように改善したのか、録音を聴きながらよくなった点を楽譜に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数名指名して感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲分析から出た内容を意識して歌うことで、ねらいに近づくことができたか、活動の振り返りを行う。 ・ 次回の課題を意識させる。

9 備考

(1) 板書計画

A【強弱】赤 1列目	楽譜「てのひら」
B【発音】青 2列目	※TVで映し出されたいくつかの 「修正ポイント」を教員が拡大楽 譜に書き写し、一つにまとめる。
その他の表現 えんぴつ（黒）	

(2) 準備：視聴覚機器（タブレット1台、録音機、TV）、拡大楽譜、ワークシート、模範CD

(3) 参照：ワークシート（楽譜「てのひら」）

協調学習における意識調査

音楽活動における実態調査

(4) 在籍生徒数：男子 名、女子 名、計 名